

第84回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成21年9月4日(金) 17:11～17:35

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	麻生 太郎	内閣総理大臣
議員	河村 建夫	内閣官房長官
同	野田 聖子	科学技術政策担当大臣
同	与謝野 馨	財務大臣(代理 石田 真敏 財務副大臣)
同	塩谷 立	文部科学大臣
同	二階 俊博	経済産業大臣
同	相澤 益男	常勤(元東京工業大学学長)
同	本庶 佑	常勤(京都大学客員教授)
同	奥村 直樹	常勤(元新日本製鐵(株)代表取締役 副社長、技術開発本部長)
同	白石 隆	常勤(元政策研究大学院大学教授・副学長)
同	榊原 定征	東レ株式会社代表取締役社長
同	今榮東洋子	名古屋大学名誉教授
同	青木 玲子	一橋大学経済研究所教授
臨時議員	斉藤 鉄夫	環境大臣

(議事次第)

1. 開会

2. 議事

(1) 諮問第11号「科学技術に関する基本政策について」

(2) 独立行政法人日本学術振興会の中期目標・中期計画等の変更について

(3) 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者及び研究課題について

(4) その他

(配付資料)

- 資料 1 諮問第 1 1 号「科学技術に関する基本政策について」
- 資料 2 - 1 独立行政法人日本学術振興会の中期目標・中期計画等の変更について
- 資料 2 - 2 独立行政法人日本学術振興会に関する省令変更案（新旧対比表）、独立行政法人日本学術振興会 業務方法書変更案（新旧対比表）・中期目標変更案（新旧対比表）・中期計画変更案（新旧対比表）
- 資料 3 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者及び研究課題について
（案）
- 資料 4 - 1 平成 2 2 年度科学技術振興調整費概算要求方針
- 資料 4 - 2 平成 2 1 年度科学技術振興調整費による「重要政策課題への機動的対応の推進」の指定について
- 資料 4 - 3 平成 2 2 年度科学技術関係予算概算要求（概要）
- 資料 5 第 8 2 回総合科学技術会議議事録（案）

(議事概要)

【野田議員】

(1) 諮問第 1 1 号「科学技術に関する基本政策について」

諮問第 1 1 号「科学技術に関する基本政策について」について、資料 1 に基づき、野田議員より説明。

議題 (1) に関する各議員の発言は以下のとおり。

【塩谷議員】

我が国を取り巻く状況が大きく変化する中、総合科学技術会議において我が国の今後の科学技術の政策の基本となる第 4 期の科学技術基本計画の策定に向けて検討を開始することは極めて重要。文部科学省においても、創造的人材育成を初め、基礎科学力の強化や低炭素社会の実現に向けた科学技術の推進は極めて重要であると認識しており、本年 6 月より科学技術学術審議会において、第 4 期科学技術基本計画の策定に向けて検討を開始したところ。文部科学省としても、今後総合科学技術会議における検討に積極的に協力してまいりたい。

【二階議員】

イノベーションは、将来の成長の原動力であるとともに、地球温暖化などの課題を解決に不可欠なものであり、国の新たな科学技術政策の方向を示していくことは極めて重要。

新しい科学技術基本計画の策定においては、我が国の経済成長力の強化という目標に向けて、研究開発の政策をいかに新産業の育成に結びつけていくか、という観点が必要。

このため、課題の解決を明確に打ち出した研究開発の推進、新技術をスムーズに産業化につなげるための環境整備について議論していくことが必要。

【齊藤議員】

第3期基本計画で環境も重点4分野の一つに入れていただいた。地球環境問題は今後の社会を決する重要問題なので、引き続き環境についてご配慮をお願いしたい。

(2) 独立行政法人日本学術振興会の中期目標・中期計画等の変更について

独立行政法人日本学術振興会の中期目標・中期計画等の変更について、資料2-1に基づき、塩谷議員より説明。

(3) 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者及び研究課題について

最先端研究開発支援プログラムの中心研究者及び研究課題について、資料3に基づき、野田議員より説明。

議題(3)について原案どおり決定することとした。

議題(3)に関する各議員の発言は以下のとおり。

【相澤議員】

支援会議の構成員と、ワーキングチームの座長を務めさせていただいたので、一言申し上げたい。

先ほどの大臣のご説明にあった、資料3の最後のページの「参考」としてある図に、ワーキングチームが選考を進めてきたプロセスを示している。そこで私が感じたことですが、既に世界のトップに立っている研究者、あるいはこの数年間で世界トップになれることが期待

される研究者が、我が国としては大変数多くいるということを改めて認識した。そして、ワーキングチームの構成員の方々のご自分の専門分野に関わらず、この565件の応募のすべてについて評価にかかわった。特にヒアリングについては、圧巻と申せるところではないかと。たとえノーベル賞受賞者であっても、これまでの実績というよりは、これからどんなことを革新的にやられますか、という質問があるなど、色々な角度からの議論が大変有益であった。

その結果として、先ほど30件が選定されたが、非常に多様な分野、それからいろいろな研究ステージのものが入っている。いずれも世界をリードするということに確信を持てる内容であろうと。しかも、国民に対しても明るい希望を指し示せるものではなかろうかと。

ただし、最終段階まで残らなかった応募案件に、非常に数多くの宝が、まだまだたくさんある。基礎研究のまた基礎研究と言われるような部分から非常に幅広くいろいろある。この選に漏れたからといって、こういう分野のところで、それぞれの中心研究者が大切であると。我々選考に当たったものとしては、国としてさらに力が発揮できるようにしていく、新たな施策が必要ではないかということを感じた。

【本席議員】

今回選ばれた30件、いずれもすばらしい方であり、ぜひ国としてサポートすべきと私も心から願っているが、やはり研究というのはお金が十分あることは必要だが、あり過ぎるのも問題。しばしばお金があり過ぎてスポイルされるということもあるので、またこれは国民の血税でありますので、やはり引き続き、そのプロポーザルに対して適切であるのかを、我々としてはしっかり見ていく必要がある。

【白石議員】

実際にヒアリング対象者からのお話を全部聞かせていただき、日本にはこんなにすばらしい人がいるのかと、本当に元気になった。日本という国に対して、やっぱり誇りが持てる。ですから総理、お忙しいのはよくわかっているが、ぜひ、この選ばれた30人については単に会うだけでなく、こういう人たちが実際に何をやっているのかが国民に少しでもわかるように、そういうふうなことを、この30人の方に言っていただくことをぜひお願いします。これは本当にいいプログラムだと思いますので。

【榊原議員】

私もワーキングチームの構成員に加わりまして審査に参画したが、今、先生方おっしゃったとおり、本当に日本のトップレベルの研究者の方が、非常にレベルの高い、創造性のあるチャレンジングな、しかもトップ水準で、将来の日本の成長あるいは基盤をつくる、本当に夢のあるテーマを研究していらっやって、私も改めて意を強くした次第。ぜひ総理自身がお会いいただきたい。

これはもともと総理と関係閣僚の皆さん方の努力で発足したプログラムで、私も改めて感謝申し上げるが、是非、このプログラムを新政権になっても継続することはもちろん、こういった先進的なプログラムを恒久的な制度として定着させて、研究者を鼓舞していただきたい。そのためにも、この30のテーマがきちっと成果を出すと。国民にしっかりと成果還元する、日本の成長に寄与することができるように、我々総合科学技術会議としても、きちっとフォローすることが必要だと改めて痛感している。

【奥村議員】

こういう制度をつくっていただき、本当にありがとうございます。私もずっと選定の過程で参加させていただいて、大変素晴らしい方が多いなと実感している。あと、選ばれた30件を、是非、本当に国民にわかりやすい形で発信していただきたいし、また、いろいろ関係府省の所掌の範囲のテーマもあると思うので、各府省でも関係するテーマを目立つところに置いて宣伝していただくとかの工夫もしていただき、国民に広くわかっていただく広報活動も大事じゃないかと思うので、よろしく願いしたい。

【塩谷議員】

ただいまいろいろご発言ございましたように、関係各位には献身的なご尽力により大変素晴らしい選定作業をやっていただいて、感謝を申し上げる次第。このプログラムについては、複数年にわたって多額の国費を用いる事業であるとして、国としてもしっかり説明責任を果たしていく必要が重要で、今お話が出たとおり、できるだけ国民の皆さん方にわかりやすく知らせていくことが大事。

それから、選定過程あるいは適時適切に説明責任を果たしていくこと、そして、国費をむだなく執行する観点から研究計画、支出内容をしっかりと精査することが重要。中心研究者が存分に実力を発揮するためには、研究支援担当機関を選定するとともに、基金の運用にか

かわる方針を適切に定めていくことが必要。

日本学術振興会を所管する文部科学省としては、最先端研究開発支援プログラムに対する社会、国民の期待に応えられるよう、本日は承を得た中期目標等に沿って、基金の運用管理に万全を期していく。この法改正を担当したが、本事業は画期的な試みであり、関係者が一丸となってしっかり取り組んでいただくことを期待。

【二階議員】

候補案件の選定にあたっては、総合科学技術会議の有識者議員をはじめ、多くの専門家の方々のご努力に心から感謝したい。「世界の最先端」と呼ぶにふさわしい案件を選定していただいたと高く評価。

今回の候補案件を見ると、太陽光発電、人支援ロボット、がん対策等の分野で革新的な成果を実現し、地球温暖化や高齢化といった今日の社会の重要な課題を、喫緊に解決を目指すものが多数含まれており、大変印象深い。

また、大学や国の研究機関と企業が英知を結集して進めるような案件が多いと伺っているが、まさに未来の経済成長に向けた投資につながれば幸い。日本の代表的な学者等が選ばれているが、まさに世界に誇れる研究の成果が示されることを大いに期待。

【斉藤議員】

16年前に科学技術基本法の立法に関与させていただいた。そういう意味では、その1つが、大きな、こういう形で出てきたのかなと非常に感慨深いものがある。ただし、基礎研究的なものも多いが、我々もどんな成果が出るのかという観点からのみで見ると、ある意味で基本的なしっかりした学術的な基礎を築くという研究行為から少しずつ外れていくのも心配である。もちろん我々国民は成果を望んでいるが、それと同時に学術的に立派な、世界に通用する研究をしていただきたい。そういう思いも我々としては強く持っている、研究者の方に伝えていただければと思う。

(報道関係者入室)

【麻生議長(内閣総理大臣)】

大変長い間、皆様方にご苦勞いただきましたが、本日、最先端研究開発支援プログラムの支援対象となる、いわゆる中心的な研究者及び研究課題を最終的に決定することができた。今までのやり方にとられることなく選考ができたことは、これは、ものすごく画期的なことだと、私自身はそう思っている。極めて透明かつフェアな手続で選定をしていただいた。これは本当に、皆様方のご努力のおかげで、感謝を申し上げる。

プログラムに選ばれた中心研究者の方々は、今、もう既に日本を代表される、世界を代表される方々が多いが、これまでの研究課題でも立派な業績を上げられた方が、さらにステップアップするという我が国の明るい将来、未来を予感させるものがあり、正直これはすごく感激した。

いずれにしても、日本の優秀な研究者の持てる力を最大限に発揮できるようにするために、長い間みんなで知恵を集めて、ここまできて、政治の世界とか行政の世界とか、いろんな分野で弊害になっていたところを風通し良くした。いろいろなことにご努力をいただき、まことにフェアにここまで選んでいただいた。自信と気概を持って、今後とも研究を進めていただきたい。これによって、日本の明るい未来を創造していただきたいと、心から念願している。

夏休み返上で本当にお世話になり、感謝を申し上げます。

(報道関係者退室)

【野田議員】

なお、報告事項として資料を配付しておりますので、ご参照ください。

前回の議事録と本日の資料は公表いたします。

ありがとうございました。